



TOMODACHI

TOMODACHI  
イニシアチブ

★  
20  
23  
●

活動報告書

## 次世代リーダー育成を目指して

親愛なる友人のみなさま、

2023年は、TOMODACHIイニシアチブにとって、アラムナイが1万人を超える新たな重要な節目の年となりました。東日本大震災から十数年経った今、TOMODACHIプログラムが東北の地域社会に持続的かつ継続的な復興支援を提供し、2011年の「トモダチ作戦」で示された親善の証として、日米両国の若者のリーダーシップとつながりを促進するという使命を果たし、繁栄していることを誇りに思います。

TOMODACHIは、毎年新しい若者を受け入れ続けていますが、今日のリーダーとなったアラムナイたちとのつながりを享受しています。グローバル企業で働く若いプロフェッショナル、政府で働く志の高い若者、非営利組織で働く地域社会のリーダー、そして学術界で働く勤勉な研究者など、その多くは、私たちの社会のグローバルな未来に貢献する道を歩んでいます。

世界的なパンデミックがほぼ収束した2023年は、多くのプログラムを再開することができ、コロナ禍時代の教訓を生かして、より創造的でハイブリッドなコンテンツを開発し、活動の効果を高めることができました。今年の2つの大きなハイライトは、夏に東京で開催されたエネルギー溢れる次世代サミットと、秋にワシントンD.C.で開催された米日カウンシル年次総会にTOMODACHIのアラムナイが参加し、注目を集めたことです。

TOMODACHIの章の始まりを示すもう一つの証は、新たな寄付者を迎えていることです。2023年は、新潟県に本社を置く著名な建設・貨物トラック輸送企業、田中産業株式会社がTOMODACHIストラテジック・パートナーに加わり、日米の大学生を対象とした「農業・気候変動・リーダーシップ」をテーマとする新しいプログラムを立ち上げます。

次世代リーダー達の成長を見届ける機会を提供して下さり、さらには「次世代のリーダー」の育成と社会で活躍する「現在のリーダー」であるアラムナイの育成という私たちの活動を支援して下さるファウンダー、スポンサー、実施運営団体、アドバイザーや支援者の皆さまのビジョンと多大なるご支援に心より感謝申し上げます。米日カウンシルと在日米大使館は、日本国政府をはじめとした多くのパートナーの皆さまと一緒に、日米の若きリーダーの育成というミッションを通して社会に貢献できますことを誇りに思っております。未来の日米関係への皆さまのコミットメントに、心より感謝申し上げます。

*Ralph Rabe*

駐日米大使  
ラーム・エマニュエル

*Augustine Basella*

米日カウンシル 会長兼CEO  
スザンヌ・バサラ



「このプログラムで学んだことは、私たちの可能性は無限大だということです。一人ではできないことでもいろんな人の助けを得て私たちができる可能性が広がったと感じています」

佐藤ななみ氏



### 使命

TOMODACHIイニシアチブは、米日カウンシルと在日米大使館が主導する官民パートナーシップで、日本国政府の支援も受けています。東日本大震災後の復興支援として発足され、教育・文化交流・リーダーシップ育成などのプログラムを通して、日米の次世代リーダー育成を目指します。

### 背景

2011年3月11日の東日本大震災の発生を受け、米軍と自衛隊は「トモダチ作戦」を通じて東北地方への緊急人道支援活動で協力し、成功を収めました。この時の協力と友情の精神を基盤に、米国と日本はTOMODACHIイニシアチブを開始しました。TOMODACHIは在日米大使館と米日カウンシルが主導し、日本国政府の支援の下、日米両国の企業、組織、個人から協力を受け、運営されています。

### ビジョン

日米関係の強化に深く関わり、互いの文化や国を理解し、さらには、より協力的で繁栄した安全な世界へ貢献するために、また、そうした世界で成功を収めるために必要とされている、スキルと国際的な視点を備えた日米の次世代リーダーである「TOMODACHI世代」の育成を目指しています。

### 将来

TOMODACHIイニシアチブは、革新的な官民パートナーシップの模範としての役割を今後も果たしていきます。そして「TOMODACHI世代」を育成するアラムナイ(プログラム経験者)・プログラムなど、異文化交流を通じて日米の若手リーダーを育成する各種プログラムを企画・構築し、日米関係を支援する企業・団体とのパートナーシップを拡大していきます。

### プログラム

**教育プログラム**は、短・中・長期の留学体験を通じ、互いの文化に触れることで、日米両国の若者の交流を活性化及び拡大し、彼らの人生に刺激を与えます。

**文化交流プログラム**は、スポーツ音楽、芸術分野において、日米両国の若者が、相互の国の文化を学び、関心を継続していくためのきっかけを提供します。

**リーダーシップ・プログラム**は、次世代のリーダーとして、成功を収めるためのスキルや専門知識を得る機会を提供します。

**アラムナイ・プログラム**は、TOMODACHIの経験を基に実施されるプログラムです。日米の若者たちが経験、そしてスキルや自信を身に付けることで、インスピレーションと活力を得て、夢を実現し、より良い世界を構築するために貢献できる人材となるよう支援します。



## TOMODACHIの生涯にわたる道のり

TOMODACHIは、生涯にわたる経験を通じて、多文化な若者向けリーダーシップ育成を支援しています。



- 異文化との初めての接触
- 次世代の若者に日米関係を紹介
- 人生の転機となる異文化体験
- 若者の異文化体験
- 知的好奇心を満たす学びの機会
- 社会貢献や地域社会での活動
- 次世代リーダーの育成
- 起業家精神育成プログラム
- 女性のためのメンターシッププログラム



ストラテジック・パートナー

## インパクトを与え続ける パートナーシップ

TOMODACHIイニシアチブを支援するストラテジック・パートナーは、次世代を担う若者の人生を変えるような独自のプログラムを通して、参加者の道なりに大きな影響を与え続けています。

起業家精神、地域開発、奨学金、災害看護、スポーツ・マネジメントなど、多彩なストラテジック・パートナー・プログラムでは、グローバルな経験やリーダーシップを学び、参加者同士の持続的な関係構築や繋がり場を提供しています。プログラム終了後も、アラムナイ(プログラム経験者)は、「TOMODACHI世代」として、アラムナイ向けの様々なイベントやワークショップ、プログラムへの参加や交流により、互いに刺激を与えながら成長し続けています。



**TOMODACHI 日本アムウェイ財団  
東北ミライリーダー・プログラム**

2019年に新設された本プログラムは、次世代を担うリーダーが、東北地方のまちの魅力を見直し、観光を通して地域の活性化を図ることを目的としています。日米での研修を通じて、参加者は地元の魅力を見ることができました。また、アメリカでは現地の学生たちとの交流を通じて、地域社会に向けたユニークなプロジェクトが展開され、現地の学生との交流は、地域社会における独自のプロジェクトの開発にも繋がりました。2023年、プログラムは岩手県陸前高田市で再開され、2024年の本プログラムに備えました。



**TOMODACHI Boeing Entrepreneurship Seminar**

本プログラムは、日本全国の高校生、大学生、大学院生を対象に、多様な価値観や視点を活かして社会課題の解決や日米文化の架け橋となる人材を育成することを目的としています。8ヶ月間のプログラムでは国際的な視野、起業家としてのマインドセット、自分の生き方を選択し自分の道を切り開く力を身につけることができます。また、選抜された参加者には、フィールド・スタディとして米国を訪問する機会が与えられます。



**TOMODACHI - U.S. Embassy Go For Gold  
スポーツ・リーダーシップ・プログラム**

本プログラムの目的は、日本の大学生がスポーツに携わる各分野でグローバル・リーダーとなることを奨励し、米国で得た知識を日本のスポーツ産業の発展に活用し、日米間の協力の重要性を促進することです。2023年には、10名の参加者が4ヶ月間のプログラムを無事修了しました。プログラムには、ロサンゼルスとニューヨークへの2週間の米国研修が含まれ、施設管理、地域社会との関わり、スポーツ・マネジメントのビジネスに焦点を当てた研修が行われました。



**TOMODACHI ゴールドマン・サックス・ミュージック・アウトリーチ・プログラム**

2023年7月、米国の非営利団体「HEART Global」のキャスト29名と、東京、千葉、神奈川の児童養護施設から集まった小学1年生から高校3年生までの子どもたち70名が、施設の職員35名及びゴールドマン・サックスのボランティア15名と共に歌とダンスのワークショップを行いました。また、2023年10月から11月にかけては、東北の約660人の中学生も参加しました。



**TOMODACHI J&J災害看護研修プログラム**

2015年から実施されている本プログラムは、日本の看護学生に災害看護への理解を深めることを目的としています。2023年には、日本全国から10名の看護学生が参加し、事前研修、米国研修、事後研修、最終報告会からなる6ヶ月間の研修を行いました。新型コロナウイルスの影響もあり、米国研修はオンラインで実施されていましたが、2023年には対面式に戻り、学生らは8月にニューヨーク州、ニュージャージー州およびワシントンD.C.を訪問しました。



**TOMODACHI・MUFU国際交流プログラム**

本プログラムは、東日本大震災で被災した日本人学生と南カリフォルニア州の高校生のための交流プログラムです。文化交流活動やホームステイを通して、日米の学生の絆を深めることを目的としています。プログラムを通して、生徒たちは様々な文化交流活動を体験し、多様な視点から日米関係、防災、持続可能な社会活動への理解を深めました。



**Building the TOMODACHI Generation: Morgan Stanley Ambassadors Program**

本プログラムは、社会的課題解決のための起業家手法を学ぶリーダーシップ・プログラムです。2023年は、日本の大学生9名とアメリカの大学生6名が参加し、非営利組織が政府や企業とセクターを超えたパートナーシップを構築し、それぞれの強みとリソースの理解を活かして、社会的課題への解決策の開発・提案を行いました。帰国後は、日本人参加者はモルガン・スタンレーで開催された最終報告会に参加しました。

「プログラムで私が学んだことは、  
周りにはアドバイスをくれたり助けてくれる人がたくさんいるということです」

船岡知央氏





### TOMODACHI住友商事奨学金プログラム

本プログラムは2014年から、経済的に困窮している成績優秀な大学生が、約1年間米国の大学に留学することを支援しています。本プログラムは、日米をつなぐグローバルな視野を持った若手リーダーの育成を目指しています。3月、2022-23年度奨学生は、米州住友商事が実施する研修に参加し、グローバルな視野を広げ、リーダーシップを身につけることができました。2023年度は10名の奨学生が選ばれ、ワシントンD.C.で開催された米日カウンシル・アニュアル・カンファレンスに参加しました。



### TOMODACHIサマー・ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム2.0

2012年より実施され10,000人程度の参加者を輩出したプログラムに基づき2023年より新設された本プログラムでは、岩手県、宮城県、福島県の高校生と大学生17名にリーダーシップ育成の機会を提供しました。参加者は、2023年夏に3週間かけて、カリフォルニア大学パークレー校で地域貢献とリーダーシップについて学びました。参加者は、社会問題を解決するためのアイデアの出し方、それを企画・実行し、アクションを起こす方法を学びました。そして、それぞれの課題を解決するためのアクションプランを策定し、仙台で発表しました。



### TOMODACHI Toshizo Watanabe Leadership Program

本プログラムは、日本全国の高校生にリーダーシップの機会を提供するものです。8月には14名の生徒がカリフォルニアを訪れました。10日間のプログラム期間中、生徒たちはジャパン・ハウス、ロサンゼルス・ホロコースト博物館、全米日系人博物館などの文化施設を訪れ、米国の歴史や多様な文化に触れ、日米関係や多角的な視野及びリーダーシップについての学びを深めました。また、在ロサンゼルス日本国総領事公邸を訪問する機会もありました。週末の現地の家庭でのホームステイ体験や、現地の高校での体験学習を通して米国の高校生との交流を深めました。



### TOMODACHI-UNIQLOフェローシップ

2013年に開始された本プログラムは、日本のビジネスおよびファッション業界を担う次世代リーダーを支援するプログラムで、グローバル志向の経営者やファッションデザイナーを目指す日本人に、ビジネスやファッション分野で米国のトップレベルの大学院教育を提供するものです。本プログラムによって、経営者やデザイナーを目指す日本の才能ある若者が夢を実現し、将来、国際的に活躍できる人材となることが期待されています。2023年、プログラム生の1名がパーソンズ・スクール・オブ・デザインを卒業し、ユニクロUSAでインターンシップを行い、10月にプログラムを修了しました。



一般基金プログラム

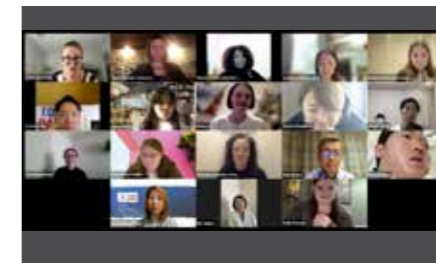
## 異文化リーダーの育成

2023年度には、3つの一般基金プログラムを実施しました。ドナーからの寄付により、教育交流・リーダーシップ育成プログラム・異文化理解プログラムの実施が可能となりました。



### TOMODACHIカケハシ イノウエ・スカラーズプログラム

本プログラムは、日米の大学生が互いの国や文化について学ぶ機会を提供する青少年交流プログラムです。2014年に開始された本プログラムの特徴は、ダニエル・K・イノウエ上院議員の生涯を称え、参加者たちがイノウエ上院議員の国、遺産、そして日米関係への貢献について学ぶ機会を提供することです。2023年、選ばれた5校の米国の大学は日本の大学と提携し、交換留学を促進しました。



### TOMODACHI Story Jam for Youth with Disabilities

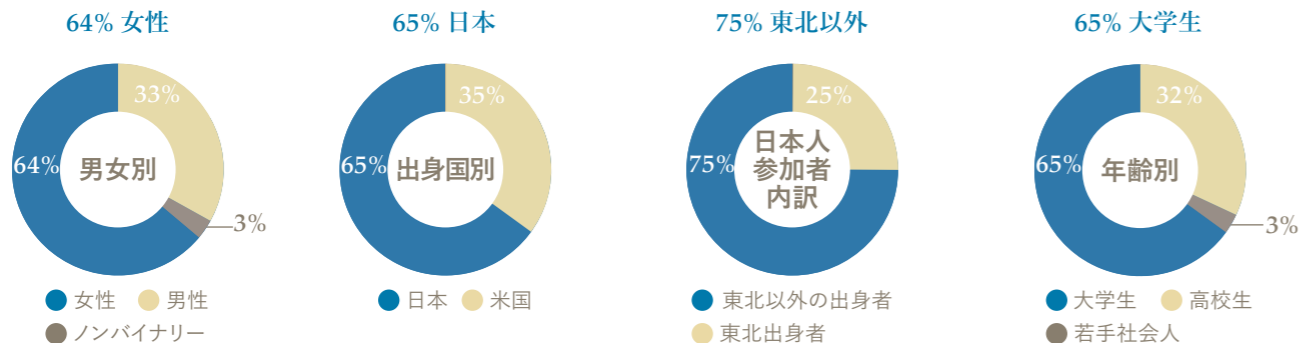
ストーリーテリングとリーダーシップを学ぶ本オンラインプログラムは、障がいを持つ日米の若い社会人と学生10名を対象に開催されました。9週間のプログラム期間中、参加者は毎週セッションに参加し、重要な課題に直面した瞬間や、その課題をどのように乗り越えたか、そしてその洞察や経験をどのように自分自身や地域社会にポジティブな変化をもたらすことができるかについて話し合いました。プログラムは、参加者のアドボカシーストーリービデオの上映で締めくくられました。



### TOMODACHI-STEM Women's Leadership and Research Program

本プログラムは、理工学を専攻する日本の女子大学生を対象に、2週間のバーチャル体験を伴う計5週間の研究インターンシップを提供します。ペンシルベニア州のリーハイ大学とテキサス州のライス大学にて実施される本プログラムは、キャリア探索、英語力強化、文化的な経験、そしてアメリカ人学生との共同研究の機会を提供します。2023年2月には、10名の学生がプログラムを修了し、3月に東京にあるダウ・ケミカル日本株式会社を訪問し、研修の成果を発表しました。

2023年度の統計



発足以来、





## 永続的なエンゲージメント

2023年、TOMODACHI世代は、人生を変えるような唯一無二のリーダーシップ・プログラムに参加したアラムナイは、1万人を超えました。しかし、TOMODACHIの経験は、プログラム参加だけに留まりません。TOMODACHI世代のパワーは、それぞれの地域や社会全体との繋がりを維持し、積極的なリーダーとして活躍する若者や若いプロフェッショナルのネットワークと高いエンゲージメントにあります。年間を通じて、TOMODACHIアラムナイは、全国や各地域で開催される様々なプログラムやイベントに集結し、社会に前向きな変化を促進しています。具体的には、「TOMODACHIアラムナイ地域フレームワーク」「次世代サミット(TOMODACHIサミット)」「TOMO-KINキャリアトーク」等の革新的なプログラムを実施しています。TOMODACHIアラムナイ・コミュニティは、人と人とのつながりを通して若者リーダーを育成し、草の根レベルで力を与え続けるという日米両国の揺るぎない約束を体現しています。TOMODACHIアラムナイプログラムは、プルデンシャルの寛大な支援によって成り立っており、次世代のグローバルリーダーへの道を開き続けています。

TOMODACHIアラムナイ・リーダーシップ・プログラムは、日米関係を担う次世代リーダーが、TOMODACHIの経験を基に、夢を実現するためのスキルや自信を得て、アラムナイ同士が影響を与え合い、より良い世界の構築に貢献できるよう支援を続けています。

### TOMODACHIアラムナイ・プログラム4つの柱



#### 社会に出る準備

メンタリングやアラムナイ同士の交流を通して、次世代のリーダーとして必要な知識やスキルを身に付ける機会を提供し、実力を備えたグローバル人材となるよう支援します。



#### クリティカル&イノベティブ・シンキング

市民活動既成概念に捉われない、時に批判的で革新的な考え方を学び、21世紀の成功と繁栄に不可欠な、優れた課題解決スキルを養います。TOMODACHIを通じて得たグローバルな体験を地域社会に還元し、新たな知識、スキル、価値やモチベーションを創出して地域に貢献します。



#### 市民活動

TOMODACHIを通じて得たグローバルな体験を地域社会に還元し、新たな知識、スキル、価値やモチベーションを創出して地域に貢献します。



#### つながりと継続性

TOMODACHI世代の一員として、アラムナイ同士が交流する中で、さらにネットワークを拡大し、地域の一員として、そしてリーダーとして、人と人とのつながりを生かしていきます。

## Engaged and Empowered: Building Alumni Connections

### アラムナイハイライト

#### TOMODACHIアラムナイ地域フレームワーク



TOMODACHIアラムナイ地域フレームワークは、各地のTOMODACHIコミュニティを構築・強化するもので、現在は米国および日本の領事館・大使館の支援のもとで実施されています。この枠組みでは、各地域の地域代表として選ばれたアラムナイが、ネットワーキングやビジネススキルアップのためのイベントに他のアラムナイを招待し、コミュニティを強化し、将来のリーダーを育成する機会を提供します。

#### 次世代サミット



7月1日、次世代サミットには、ダイナミックで多様な参加者が集まり、パネルディスカッション、アラムナイとの再会、スキルアップのためのブレイクアウトセッション、そして特別なイブニング・レセプションに参加しました。このイベントは、TOMODACHIアラムナイと渡邊奨学生がつながり、共に学び、現代の課題について互いに刺激し合う場となりました。パネルディスカッションでは、TOMODACHIアラムナイたちが、留学や女性のエンパワーメントなど、さまざまなトピックについて自身の経験や学んだことを熱心に語りました。ディスカッションでは、示唆に富んだ会話が交わされ、お互いから学ぶ場となりました。

#### TOMO-KIN



本イベントは、2021年に実施されたTOMODACHIアラムナイのアンケートに寄せられた意見をもとに、よりカジュアルな場で他のアラムナイと繋がるために始まりました。パンデミックの時期に開始された本イベントは、1時間のバーチャル・セッションとして始まり、前半は英語、後半は日本語で行われ、両言語でのさらなる交流と知識の習得に関心のあるアラムナイに対応しました。2022年7月以降、本イベントは対面で実施されるようになりました。2023年度には、3回開催され、ゲストスピーカーがTOMODACHIアラムナイにキャリアの歩みと助言を共有しました。

「プログラムが異文化交流を促すことに焦点が置かれていたことを最も楽しみました。プログラムに参加しなければ出逢うことのなかった人々と出逢いとても感謝しています」

東海林直氏





タラヴェラ・アイカ・メイ

**「TOMODACHIのスタッフやメンバーは、人々に多くの機会を与え、自身を向上させ、本質的にすべての人にとってより良い世界を作りたいと考えています」**

タラヴェラ・アイカ・メイ氏は、TOMODACHI MetLife Women's Leadership Programの卒業生で、現在TOMODACHIシニア・アラムナイ・インターンを務めています。彼女は、日米の各地域のアラムナイをつなぎ、互いに影響を与えあうことを目的としたTOMODACHIアラムナイ地域フレームワークの一員で、九州地区を代表する地域の主要メンバーでもあります。

**Q. TOMODACHI MetLife Women's Leadership Programに参加しようと思った理由は何ですか？**

このプログラムに応募しようと思った大きな理由のひとつは、メンター制度があったからです。私は、プログラムに参加することを決めて本当に良かったと思っています。というのも、このプログラムは私の人生の転機となったからです。多くの素晴らしいメンターに出会い、彼らは私の視野を広げ、自分自身をさらに成長させ、より大きく、より良いものを創造し、着手することができるのだと気づかせてくれました。

**Q. プログラムで何を学びましたか？**

私が学んだのは、基本的にネットワークング力です。自分では気づかなかったことですが、頼みごとをしたり、連絡を取ったりすることに関して、私は自分が思っているよりも少し控えめだということに気づきました。でも、助けを求めたり、お願いしたりしなければ、決して助けてもらえないということに気づきました。人脈作りは必ずしも自分だけの問題ではありません。自分が相手に何を提供できるかも考えなければなりません。

**Q. TOMODACHI アラムナイ・リーダーシップ・プログラムのインターンに興味を持ったきっかけはなんですか？**

このプログラムに参加した年はコロナ禍で、残念ながら渡米できなかったのですが、このプログラムが終わってしまうのは寂しいような、思っていたのと違うような気がしました。私はこのTOMODACHIのコミュニティーの一員であり続けたかったのです。プログラム中、メンターたちは私を助けるために多くの時間を割いてくれました。だから、この組織が私にしてくれたのと同じ努力とエネルギーをお返すために、私にできることは何だろうか?と思ったのです。

**Q. 自分にとってTOMODACHIとは何ですか？**

私にとってのTOMODACHIとは、無欲であることです。TOMODACHIが舞台裏でどのように動いているのかを見る機会があったから、このコミュニティーを作り上げているスタッフやメンバーの一人一人が、本当に無欲の人たちだと感じています。最終的に、人々に多くの機会を与え、自身を向上させ、本質的にすべての人にとってより良い世界を作りたいと考えているのです。



前田哲志

**「アメリカ研修で学んだ、モチベーションの大切さ、人との関わり方の大切さを日本に持ち帰り、この研修をより意味のあるものになりたいと思います」**

前田氏は、TOMODACHI Toshizo Watanabe Leadership Programの卒業生で、広島県在住の16歳です。

**Q. プログラムで何を学びましたか？**

アメリカ研修では、多くの学びがありました。印象的なことを二つ紹介します。一つ目は、カリフォルニア工科大学(CalTech)でお会いした研究者の方が言っていた「好きな学問分野を見つけて、その方向に進んでいくことが将来につながる」。二つ目は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)の教授が言っていた「人生何が起こるか分からない、だからこそ人との関わりを大切にすること」です。アメリカ研修で学んだ、モチベーションの大切さ、人との関わり方の大切さを日本に持ち帰り、この研修をより意味のあるものになりたいと思います。

**Q. アメリカでの生活で印象に残っていることはありますか？**

アメリカという場所は、あいさつや食事などの文化や価値観、人、モノ、コトが日本とは全く異なる場所で毎日が刺激的でした。それは、自分が持っていない価値観や、したことのない体験が毎日あふれていたからだと振り返って思います。特に、CalTechとUCLAは中学生の頃から興味があったので、キャンパスツアーやゲストスピーカーのお話、Q&Aは、知らなかったコトや知りたかったコトを知ることができ、私にとってとても価値があるとともに貴重な体験で刺激的でした。

**Q. 「刺激」という言葉の解釈について、もう少し説明していただけますか？**

「刺激」は、分からないことを知りたい知的的好奇心と、自分とは異なる他者との関わりの中で得ることができます。私は、アメリカ研修を通して、自分は何が好きで、何になりたいのかを具体的にすることができました。

**Q. 将来の夢は何ですか？**

私は将来、宇宙工学のように未開の地が多分に広がっている分野について学び、それに関係する仕事につきたいと考えています。これは、アメリカ研修の前から考えていたことですが、この道にある魅力は、誰も分からないことを探す、知らないことを知ることができるという「刺激」が溢れていることです。アメリカ研修の中での、UCLAの教授との出会いを通して、私は将来の選択肢として研究者を考えるようになりました。



マシュー・ウィンダース

**「TOMODACHIのアイデアは、2つの文化を結びつけ、異なる国の人たちと一緒にプロジェクトに取り組むというもので、とても気に入っています」**

マシュー・ウィンダース氏は、Building the TOMODACHI Generation: Morgan Stanley Ambassadors Programのアラムナイです。現在、ニューハンプシャー大学(UNH)マンチェスター校の学生で、公共サービスと非営利組織のマネジメントを専攻しています。

**Q. 「公共サービスへのパッション」について、何がきっかけで情熱を持つようになったのか、教えてください。**

2016年にマンチェスターで初めて開催されたゲイプライドのイベントに赴いた時、このような問題を本当に危惧している組織や、私と同じような人たちがいることを知り、コミュニティーの感覚に驚かされました。そのときから、このイベントを開催している団体に参加する必要があると感じました。当時私は高校1年生でしたが、ロチェスター・メインストリート理事会の役員になることを決めました。

**Q. 公共サービスが、若い世代が参加すべき重要なテーマだと思うのはなぜですか？**

参加することでコミュニティーをより良い場所にする可以从るからです。公務員になる人は、百パーセントそれに専念し、他のことは目も触れない、というスティグマがあるように感じますが、私はそれに反対です。なぜなら、他人を助けるためには、余裕を持ち、自分自身を大切にしなければいけないからです。

**Q. 公共サービスに興味がある人へのアドバイスはありますか？**

まず、あきらめないでください!いつも多くの関係者と一緒に仕事をしなければならないし、承認を得るのに時間がかかることもあるので、時には本当にストレスがたまるし、悲しいこともあるかもしれませんが、でも、あきらめなければ、物事を実現することができるので、あきらめないでください。

**Q. TOMODACHIのプログラムでは、チームでプレゼンを作成されたそうですが、その内容について詳しく教えてください。**

プロジェクトでは、日本の女性にメンタルヘルスについて情報提供し、さまざまなリソースを提供することに取り組みました。私たちは、日本人女性がメンタルヘルスについて学び、議論するための安全で受け入れやすい場を作るためにこのプロジェクトを考え出しました。今、アメリカでも日本でも、メンタルヘルスはとても大きな問題になっています。どちらの国でも、この問題には多くのスティグマが存在します。私たちの目標は、同じような問題や状況を抱える人たちを集め、コミュニケーションを図り、一緒に乗り越えていくことでした。

**Q. あなたにとって「TOMODACHI」とは？**

TOMODACHIのアイデアは、2つの文化を結びつけ、異なる国の人たちと一緒にプロジェクトに取り組むというもので、とても気に入っています。



サラ・オクノ

**「プログラムへの参加は、パンデミックの中で新しい人に出会う良い機会になり、コロナ禍でも様々な人と関わったことで、世界には様々な考え方をを持った学生がいるんだと知りました」**

サラ・オクノ氏は、TOMODACHI・MUFG国際交流プログラムのアラムナイで、現在アメリカの高校に通う高校3年生です。彼女の学生生活は、コロナ禍の影響を受け学生生活がほぼオンラインで実施されました。

**Q. TOMODACHI・MUFG国際交流プログラムに応募したきっかけを教えてください。**

中学校生活の終盤と高校生活の序盤のほとんどをオンライン授業で過ごし、夏休みをよりよく過ごすためにプログラムに応募しました。このプログラムへの参加は、パンデミックの中で新しい人に出会う良い機会になり、コロナ禍でも様々な人と関わったことで、世界には様々な考え方をを持った学生がいるんだと知りました。

**Q. プログラム期間中、最も印象に残っていることは何ですか？**

2021年に東北の高校生を対象にしたプログラムにアメリカ人高校生として参加し、アメリカの祝日を日本の学生に紹介したことです。文化の違いを学んだことは、私に物事を日米両方の視点から見ることの大切さに気づかせてくれました。

**Q. このプログラム参加後、ご自身の変化は感じられましたか？**

はい。2022年には、アメリカ人参加者を対象としたプログラムに参加しました。私が生まれ育った土地には、周囲に日系人がほとんどいなかったのですが、プログラムに参加したことで、日本の文化や伝統に誇りを持つことができ、他の人に影響を与える自信もつきました。そして、プログラムでは、たとえ私が日本語を上手に話すことが出来なくても、日本人の参加者たちは、私が日本文化に触れる勇気をくれました。

**Q. どのようにして日本語を身につけたのですか？**

中学校までは、日本語を土曜学校で勉強しました。そして、今は、第二外国語として日本語の授業を提供している高校に通っていて、日本語のレベルの一番高いクラスで勉強しています!このTOMODACHIプログラムは、生徒の今後の人生に大きな影響を与えていると思います。高校は残り1年ですが、卒業式では、思い出がたくさん詰まったTOMODACHIグッズと一緒に写真を撮りたいです!

## ストーリーを分かち合う

2023年米日カウンシルアニュアル・カンファレンスがワシントンD.C.で開催され、その閉会式で、TOMODACHIアラムナイが勇敢にも各界のリーダーを前に英語でスピーチしました。

佐藤陽羽氏は、2022年のTOMODACHI J&J 災害看護研修プログラムに参加しました。TOMODACHIを通じて出会った人たちのおかげで、ユニークな経験や確かな人脈を通じて、彼女は人を助けるという情熱の追求に挑戦することができました。さらに、プログラムは、彼女に救急の分野でキャリアを積むために単身で渡米することを後押ししました。

TOMODACHIのプログラムでは、他人を思いやるためには自分を大切にすること、そして人と人とのつながりの価値は、自分自身が挑戦する際の助けや、成長を促してくれるという2点で刺激を受けたと彼女は語りました。

**「人のお世話をできるような人間になりたいとずっと思っていたが、自分の潜在能力を最大限に発揮するためには、学ばなければならないことがありました」**

ヴァージニア州の病院の救急部で働き続け

ながら、これまでに彼女が学んできた貴重な教訓を、さらに多くの教訓とともに心に刻み、人々を助けることで恩送りを続けていくことを約束すると語りました。最後に、TOMODACHIで得たつながりへの感謝、このプログラムに参加したおかげで、今の私があるとスピーチを締めくくりました。

千葉悠希奈氏は、2019年のTOMODACHI-STEM Women's Leadership and Research Programに参加しました。現在、米国の大学院で神経生物学の研究をしています。彼女のメンターは、同じプログラムのアラムナイである小松夏実氏です。小松氏は、彼女が自信を持ち、自分を信じることができる安全な場所を作ってくれたと語りました。

**「日米の次世代をさらに発展させるためには、『恩返し・恩送り』という考え方が不可欠だと信じています」**

千葉氏は、いつか小松氏に恩返しをした

いと願っていますが、それまでは、次世代のSTEM分野の日本人女子学生に恩返しを続けています。彼女は、日米の次世代をさらに発展させるためには、「恩返し・恩送り」という考え方が不可欠だと信じていると語りました。

山本泰輝氏は、2022年にTOMODACHI住友商事奨学金プログラムに参加しました。山本氏は、1学期間休学し、米国でインターンシップをしています。渡米当時、米国での就職活動について何も知りませんでした。しかし、住友商事のメンターの素晴らしい実践的なアドバイスのおかげで、彼は米国で仕事を得ることができました。彼は、メンターシップの輪を維持することが、将来の鍵になると信じていると力強く語りました。

**「メンターシップの輪を維持することが、将来の鍵になると信じています」**



米日カウンシル(U.S.)および米日カウンシル—ジャパンは、在日米国大使館と協力し、官民パートナーシップであるTOMODACHIイニシアチブを管理・運営します。プログラムの開発と管理、コミュニケーションと普及活動、マーケティング、活動資金調達、寄付者との折衝などを主な活動としています。

米日カウンシル(U.S.)は、ワシントンD.C.に本部を置く501(c)(3)非営利非課税組織で、日米のあらゆる世代の人と人をつなぐ活動をする団体です。米日カウンシル—ジャパンは、東京で設立された公益財団法人です。米日カウンシル—ジャパンと米日カウンシル(U.S.)は別組織で、それぞれ独立した理事会によって運営されますが、双方が緊密に協力してTOMODACHIを運営しています。

### 米日カウンシル—ジャパン理事会 (2023年12月末日現在)

#### 理事会役員

スザンヌ・バサラ  
代表理事  
米日カウンシル 会長兼CEO

高田ヘンリー・聖一  
代表理事  
シンテックジャパン株式会社 代表取締役

岩本 展枝  
監事  
PwC あらた有限責任監査法人  
テクノロジー・エンターテインメント アシユアランス部 ディレクター  
公認会計士

#### 理事

亀田 綾子

大出 隆  
学習院女子大学国際学研究所 顧問

ジェニファー・ロジャーズ  
アシュリオンジャパン・ホールディングス合同会社、ゼネラル・カウンシル・アジア

スティーブン・ヒロシ・サカナシ  
株式会社 Matchbox Technologies、グローバル推進 マーケティング戦略 取締役

谷 美由紀  
モルガン・スタンレー・キャピタル株式会社、エグゼクティブディレクター

### 米日カウンシル—ジャパン評議員会 (2023年12月末日現在)

#### 理事役員

スコット 佐藤  
会長  
トライコー・ジャパン CEO

#### 理事

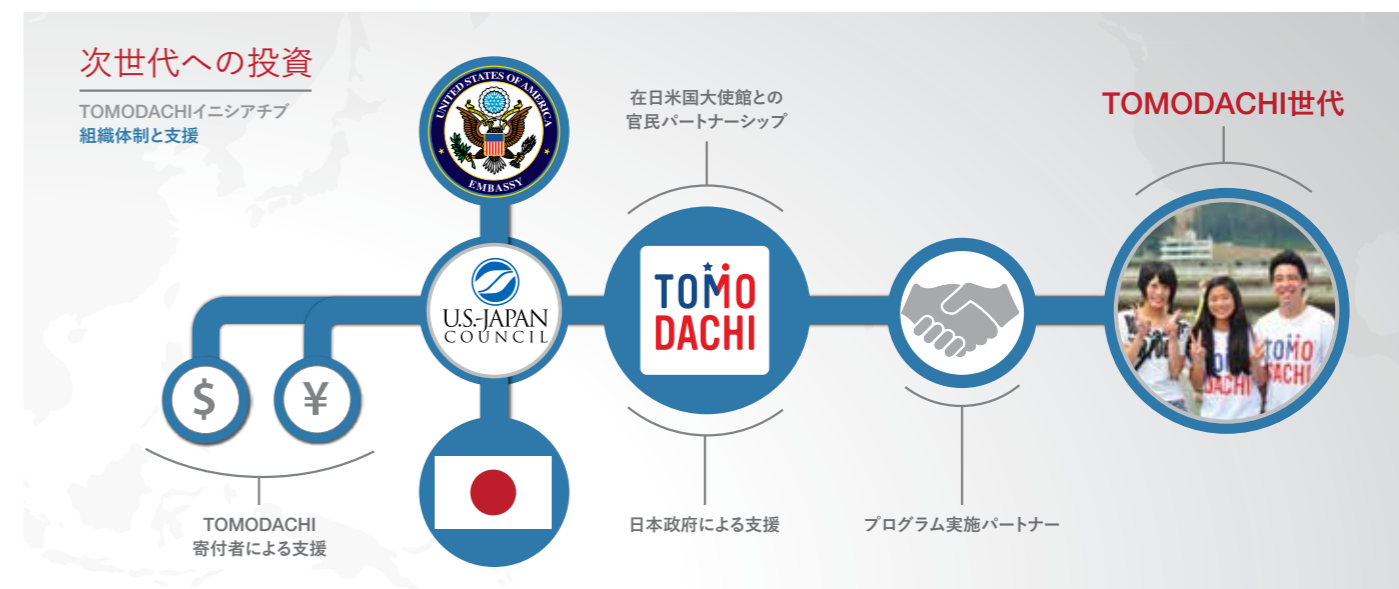
藤井 ダニエル 一範  
トラスト・キャピタル株式会社  
代表取締役社長

ウィリアム・アイアトン  
アイアトン・エンターテインメント株式会社  
最高経営責任者

大河原 愛子  
株式会社デルソーレ  
代表取締役会長

津坂 美樹  
日本マイクロソフト株式会社  
代表取締役社長

米国法人の米日カウンシルの理事および評議員のご支援にも同様の感謝を申し上げます。各位のお名前はこちらからご覧いただけます。  
<https://www.usjapancouncil.org/board-of-directors-us/> | <https://www.usjapancouncil.org/board-of-councilors/>



「コミュニティーの輪が広がり、このプロジェクトに参加していなかったら  
出会わなかったような人たちで溢っていて、大きな成長を感じました」

吉田遥菜氏



## 感謝を込めて

### —— ファウンディング・ストラテジック・パートナー —— (2012年創立当初より\$1,000,000以上)



### —— ストラテジック・パートナー —— (\$1,000,000以上)



### —— 協賛企業 —— (\$100,000から\$1,000,000)



### —— 支援企業 —— (\$10,000から\$100,000)

All Nippon Airways Co., Ltd. | ExxonMobil Japan | Imperial Hotel, Ltd. | Hayasaka Tax Accountants' Office Co., Ltd. | Japan Association of Charitable Organizations | Orrick, Herrington & Sutcliffe LLP | Tricor K.K.

#### 高まるTOMODACHIの広がり

さまざまな形でTOMODACHIの知名度を高め、幅広くご周知いただいております。数多くの企業の皆さまに厚く御礼申し上げます。



TOMODACHIロゴを機体にデザインした全日空機



羽田空港内の各所に設置されたTOMODACHIの看板

#### 実施運営パートナー

TOMODACHIではプログラム運営にあたり、パートナーとして多くの実施団体と協力して、次世代を担う若い世代に、人生の転機となるような機会を提供しています。2023年は、以下のパートナーがプログラムを実施しました。

特定非営利活動法人アスヘノキボウ | Children's National Hospital | 一般財団法人SFCフォーラム | Global Seed | 公益社団法人日本国際生活体験協会(EIL) | 一般財団法人日本国際協力センター | NPO法人じぶん未来クラブ | リーハイ大学 | パーソンス・ニュー・スクール・フォー・デザイン | ライス大学 | University of Massachusetts Foundation, Inc. | カリフォルニア大学バークレー校 | ワシントンセンター | 日本スポーツマネジメント学会(JASM) | LA84財団 | LeadOff Sports | 一般社団法人World in You(ワールドインユー)

#### TOMODACHI決算概要

TOMODACHI累計寄付額(各年)(米ドル建て)  
米日カウンシル(連結)

TOMODACHIへの寄付金および誓約寄付金	2011-2022	2023	2024-26(誓約済み)	TOTAL
米日カウンシル-ジャパン	\$35,908,412	\$2,063,196		\$37,971,608
米日カウンシル(U.S.)	24,176,107	730,000	830,000	25,736,107
<b>小計</b>	<b>60,084,519</b>	<b>2,793,196</b>	<b>830,000</b>	<b>63,707,715</b>
現物寄付(U.S.およびジャパン)	5,239,611	0	0	5,239,611
<b>寄付金および誓約寄付金の総合計</b>	<b>\$65,324,130</b>	<b>\$2,793,196</b>	<b>\$830,000</b>	<b>\$68,947,326</b>





X @TOMODACHI

f @USJapanTOMODACHI

▶ @USJapanTOMODACHI

📷 @TOMODACHI\_initiative

★ tomodachi.org ●